資料２

令和元年度　佐賀県鹿島市立東部中学校　学校評価結果

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
『心豊かに　ともに伸びる』 *～STEP UP！ あいさつ・掃除・勉強　プラスワン～*	①心の教育の推進（あいさつ・掃除）（豊かな心づくりと体づくりの推進） ②学力の定着と向上（勉強）（確かな学力づくりの推進） ③生きる力の育成（志を高める教育・進路指導の充実） ④地域とともにある学校づくり（開かれた学校づくりの推進）

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

達成度　A：ほぼ達成できた
B：概ね達成できた
C：やや不十分である
D：不十分である

3　目標・評価

①地域とともにある学校づくり（開かれた学校づくりの推進）

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○開かれた学校づくり	・学校情報の発信 ・学校の公開 ・学校評価の実施	・学校教育活動にかかる情報発信に努める。 ・学校行事や授業参観への保護者の参加率を40%以上にする。 ・開かれた学校づくり委員会等で学校評価の適正化をはかる。	・学級だより、保健だより、図書館だより、学年だより、学校だより等を発行して、学校の様々な情報を発信する。 ・保護者が行事に参加しやすい日程を設定したり、内容を工夫する。 ・開かれた学校づくり委員会等を開催して情報を公開し、学校関係者評価を実施し、の適正化を図る。	A	・学校だより、保健だより、学年だより等を定期的に発行して、学校の様々な情報を発信できた。 ・文化発表会を日曜日に開催したり、1学期の学期末PTAで中体連推戴式を行うなど工夫して保護者の参加率を40%以上に上げることができた。 ・開かれた学校づくり委員会を年3回実施し、情報を公開するとともに、適正な学校関係者評価を図ることができた。	・学校ホームページの更新はしたが、情報発信の回数が少ないので、週一回は必ず継続的に様々な情報発信していけば、保護者・地域の学校理解へ一層つながる。 ・授業参観等への参加率を上げるには今後もアピールや内容の工夫が必要である。
		・各学校との交流及び連携	・地域及び校区内3小学校との交流及び連携に努める。 ・市内中学校との交流及び連携を図る。	・小・中連携により、地域団体との連携強化を深める。さらに、地域行事への積極的な参加や協力を推進し交流の充実を図る。 ・市内中学校と市内行事や部活動を通しての交流や連携を図る。	B	・本校で取り組んだ防災教育を通じて、小中連携をはかることができた。 ・市民体育大会や少年の夢発表会等市の行事には参加協力できた。 ・市内の中学校や小学校との交流が少なく、今後の課題である。	・小中連携でやってきた防災教育を継続的に行い、今後も生徒が安心・安全な生活を送れるよう取り組んでいく。 ・全職員で東部中校区の様々な行事を把握し、小学校との交流図れるよう呼びかけ等を積極的に行って
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・業務の改善を図る。 ・教員の働き方改革の推進	・会議や事務の効率化を図り、教職員が生徒と向き合う時間を確保する。 ・時間外労働を減らす取組をおこなう。	・分掌担当者と協議事項等について事前に検討し、職員会議の効率化を図る。 ・分掌事務負担を減らすため、共有フォルダを活用して、引継ぎの円滑化や再利活用を図る。 ・課業日である毎週木曜日を部活動中止、定時退校日とさだめる。土日の部活動についても必ず一日を休業日として、時間外労働時間の軽減をはかる。	A	・分掌担当者が共有フォルダの昨年度までの資料を活用し、事務の効率化を図ることができた。 ・週一回の定時退勤日を徹底し、休業日の部活休みを1日入れ時間外労働時間の軽減を図った。	・来年度から長時間労働時間が45時間以下に設定される。そのため職員にも時間外労働時間の自己管理を呼びかけ業務改善を図る。 ・大きい校務分掌については小グループで分担して取り組むようにする。

②学力の定着と向上（勉強）（確かな学力づくりの推進）

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	・指導方法の改善・充実を図る	・授業研究会や研修会等を通して、指導法改善をおこなう。 ・9月からの3年生の放課後学習に指導者をおき、参加者の9割以上に満足させる。	・主体的で対話的な深い学びをおこなうためアクティブラーニング等の表現活動や活用力を取り入れた授業にとりくむ。 ・授業研究会を計画的に実施する。 ・3年生の放課後学習を選択教科制にして、学習意欲の向上と苦手教科の克服をはかる。	A	・校内研究では、全職員で西部型授業をおこないアクティブラーニング等の表現活動や活用力を取り入れた授業に取り組んだ。 ・3年生は入試に向けて放課後学習をとりいれ約93%の生徒が学習意欲の向上につながったと回答した。	・全職員で西部型授業は取り組めているので、今後も表現力・活用力を育てるアクティブラーニング等取り入れた指導法改善を意識しておこなっていく。　・学力の実態に応じて放課後学習を3年生ばかりでなく、他学年でも取り入れ
		・家庭での学習習慣の確立	・家庭学習時間が1時間以上の生徒が7割を超える。 ・家庭学習の指導助言を行い、宿題提出率を8割以上にする。 ・フォーサイトを活用し、望ましい学習習慣と生活リズムを確立させる。	・課題の精選をし、家庭学習の指導助言を行い、家庭学習時間確保と宿題の提出を促す。 ・フォーサイトを保護者と教師が共有し、生徒の生活習慣の確立を図る。さらに、家庭との連携の中で、家庭学習の習慣づけを図る。	A	・家庭学習時間が1時間以上の生徒が86%で、宿題提出率も80%を越えている。しかし、一部の生徒が宿題が出せなかったり、家庭学習習慣が定着せず課題である。 ・担任はフォーサイトを活用し、保護者と連携をはかり生徒の生活習慣の確立を図っている。	・家庭学習習慣が定着していない生徒への支援が必要であり、学力に応じた宿題を出したり、家庭との連携を密に図っていく。 ・フォーサイトで学校と家庭との情報の共有化を図り、生徒の健全なる育成につなげる。

③心の教育の推進（あいさつ・掃除）（豊かな心づくりと体づくりの推進）

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・道徳教育の充実 ・人権意識の高揚 ・ボランティア体験活動を通した思いやりの心、共に生きる心の育成 ・生徒指導の充実	・全職員で教科化となった道徳の授業研究を取り組んでいく。 ・校内外で、ボランティア活動を企画し、体験活動や福祉教育の充実を図る。 ・差別やいじめを許さない思いやりのある学級づくり、支持的風土のある学級づくり。人権作文や人権集会への取組を充実させる。 ・毎月、生活アンケートを実施し、生徒の問題の早期発見につなげる。	・全担任が年に1回は、ふれあい道徳などの時間を公開する。 ・生徒会活動を中心に校内外で、ボランティア活動を企画し、体験活動や福祉教育につなげる。 ・人権・同和教育担当者を中心に全職員で人権作文や人権集会への取組を充実させる。 ・毎月、生活アンケートを実施し、生徒指導主事を中心に全職員で生活面での問題の早期発見・早期対応につなげる。	A	・教科化となった道徳について、全職員で研修し授業研究をすすめるとともにふれあい道徳も実施できた。 ・生徒会を中心にボランティア活動を企画・実施し、体験活動や福祉教育の充実を図ることができた。 ・約99%の生徒が「差別したりいじめをしたりしないようにこころがけている」と回答し、人権・同和教育担当者を中心に人権教育がいきわたっている。　・毎月、生活アンケートを実施し、早期発見・早期対応をおこなっている。	・道徳の授業については、引き続き研修を深め、指導方法の改善に取り組んでいく。 ・人権意識を高める人権教育や道徳授業によく取り組めているが、それをいじめ等の問題をおこさせない心の教育へいかにつなげていくかが課題でもあり、取り組みの工夫と改善をおこなう。　・1年生で福祉教育に取り組んでいるので、3年間で系統的に福祉教育を充実させることが心の教育の充実につながっていく。
	●健康・体つくり	・望ましい生活習慣の形成 ・健康な体つくり ・食育指導の充実	・早寝早起きの習慣が出来る生徒が8割を超える。 ・家庭で、テレビを見たりゲームをする時間が3時間以上ある生徒を1割以下にする。 ・健康的な体つくりのため部活動への積極的な参加をよびかける。	・望ましい生活習慣の形成のため3年間を通した健康指導を充実させる。健康観察や生活習慣調査等で、生活の実態を調べ、家庭への啓発を図る。 ・心・技・体の育成・充実を図るため、部活動への取組を推進させる。また部活動や学級でも早寝早起きなどの指導を行い、望ましい生活習慣の定着につなげる。	B	・早寝早起きの習慣ができる生徒は約68%で、改善指導が必要である。 ・情報機器の一般化し、3時間以上利用する生徒は少ないが、SNSなどを利用する生徒が増加傾向にある。 ・健康的な体つくりのため部活動や体育活動に積極的に参加できている。	・早寝早起きの生活習慣が身についていない生徒が8割を越えないので、教職員で共通した取り組みをして改善を図る。また保護者への啓発もおこなっていく。 ・SNSなどにおける問題の未然防止のためにも全職員で情報を共有し情報モラル教育にも力を入れる。

④キャリア教育の推進

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策
教育活動	●志を高める教育	・夢や目標を持ち、その実現のための個にあった進路指導の充実	・「夢」と「望ましい将来の自分像」を持ち、その実現のために努力を惜しまない生徒の割合を80%以上にする。 ・郷土に愛着をもつ生徒育成のため、地域人材を生かし郷土について学習する機会を2回以上つくる。	・各学年における指導内容を系統的に捉え、3年間を通し た進路指導の充実を図るカリキュラムの充実を図る。 ・自己肯定感を高める方策を考え、個に応じた自分の進路について意欲的に考える生徒を育成する。　・地域の教育資源や人材をいかした体験活動や講演会を実施する。	B	・生徒が「夢」と「望ましい将来の自分像」に考えているが約73%で、将来を見据えたキャリア教育の充実が課題である。　・郷土に愛着をもつ育成のために、佐賀県内の人材を招聘し講演などはおこなうことができたが、鹿島市内の地域人材を活用した機会が少なく今後の課題	・キャリアパスポートを効果的に使い、将来の進路実現につながる系統的なキャリア教育に努める。 ・地域人材を活用した講演や授業等をおこない、郷土を愛する生徒の育成に努める。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策
特定課題	◎教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	・教職員のICT利活用に係るスキルアップの向上を図る。	・全職員がICT機器を活用し、主体的で対話的な深い学びができる指導力を身に付ける。	・ICT機器を取り入れた、主体的で対話的な深い学びをめざした授業研究会をおこなったり、研修会を実施する。	B	・毎時間ほとんどの授業でICT機器を利活用して授業ができている。主体的で対話的な深い学びにつなげる授業研究会を実施することができた。	・ICT利活用をグループ学習や発表などで具体的に取り入れるか研究授業等で取り組んでいく。また、ICT機器の利活用が思考力・表現力の向上にいかに効果的か検証する。
	●いじめ問題への対応	・いじめの未然防止に努め、早期発見、早期対応を行う。 ・組織的に対応する職員体制を整える。	・職員のいじめ問題への対応や取組に対する、生徒評価、保護者評価で、8割以上の評価を目指す。	・毎月、生徒の生活アンケートを実施し、生徒の状況を把握し、予防を含め早期発見につなげる。 ・差別やいじめのない学校づくりの具現化のため、人権集会や道徳授業などの取り組みを保護者に伝わる手立てをとる。　・またPTA講演会や集会などで外部人材を取り入れた取り組みをおこなう。	B	・毎月の生活アンケートや定期的な教育相談アンケートを実施し、生徒の状況を把握し、いじめの早期発見・早期対応のため職員は一生懸命取り組んでいる。　・また人権集会や講演会などでも人権意識の向上に取り組んでいる。 ・保護者アンケートでは、約76%がいじめと対応によく取り組んでいると評価している。しかし今年度もいじめ問題があり組織的な取り組みがかだい	・教育相談の職員研修等を取り入れ、カウンセリングの力量を高め、生徒アンケートを活用した教育相談をおこなっていく。 ・いじめのない学校づくりの取り組みについて、保護者への情報提供をおこなうとともに協力や講演会等への参加を促す。
	○教職員の資質向上	・「めざす学校を支える教師像」を目標として常に研鑽を重ねる。	・職員の接客や応対での保護者の満足度を9割以上にする。 ・先生が生徒の気持ちがわかってくれると回答する生徒・保護者がが8割以上になるように専門性と指導力を高める。	・常日頃から生徒への適切な言葉遣いに心がけ、生徒ばかりでなく保護者からの信頼を得られよう努力する。 ・保護者への対応も礼儀正しく誠実な気持ちを忘れずに丁寧に対応する。 ・教師としての専門性と指導力を高めるため、研修会や研究発表会等に積極的に参加して、資質向上をめざす。	B	・職員の接客や応対に対し約86%が満足度がみられる。今後も誠意ある対応が求められる。 ・生徒の約97%が先生方が思いやりをもって接してくれると評価し、生徒の気持ちをわかろうすると努力が見られる。　・教師の資質向上のため、研修会や研究発表会に積極的に参加している。	・保護者や来校者への応対について、全職員で研修し、今後も誠意ある態度で対応していく。 ・教師としての専門性と指導力をたかめるため積極的に研修会・研究大会等への参加を促す。
	○危機管理体制の整備	・危機に際してすぐに機能する「危機管理マニュアル」の定着。 ・危機に対して、敏感で的確な行動ができる体制整備。	・危機管理マニュアルを全職員で共通理解し、学校で起こる危機に関して未然防止に努める。 ・危機に直面した際に的確な対応ができると思う割合が、職員8割、生徒7割をこえる。	・危機管理マニュアルを全職員員に配布して、共通理解・徹底を図る。 ・関係機関との連携をとるとともに、各種訓練を実施し、体験的な理解を図る。	A	・危機管理マニュアルを全職員で共通理解し、学校で起こる危機に関して未然防止に努めることができた。 ・各種訓練を実施し、危機に直面した際に的確な対応ができると思う割合が、職員8割、生徒7割をこえることができた。	・危機管理マニュアルについて共通理解を図るため、各種訓練や研修等におい非常時における適切な対応を身に付ける。 ・各種訓練等をおこない、生徒の危機への対応力をつけさせる。
	○掃除やあいさつの充実	・目指す学校像、「明るく元気な学校」・「美しい学校」の実施 ・無言掃除指導の徹底	・学校内外で元気なあいさつができる明るく元気な学校づくりを目指す。 ・無言清掃と元気な挨拶ができると答えられる生徒を100%になるように取り組む。	・生徒会やPTAとの連携をした挨拶運動に取り組み、元気な挨拶ができる生徒を育成する指導体制を確立する。 ・無言清掃には職員が臨場指導し、元気な挨拶ができるよう職員から積極的に挨拶をおこなう。	A	・あいさつをきちんとしている生徒の割合が約98%で、あいさつ運動等の取り組みが習慣化に結び付いている。　・掃除がきちんとできている割合が約94%で無言清掃ができ、職員も臨場指導をおこなっている。	・あいさつもよくできているので、自分から明るいあいさつができる質の向上に取り組む。 ・無言清掃がよくできているので、細かいところまできれいにする心を育てる。

4　本年度のまとめ　・　次年度の取組

生徒、保護者の学校評価はどの項目も評価が高い。諸問題に対して担任ばかりでなく学年・学校でいち早く共通理解を図り、組織的に取り組んでいる。そういった取り組みもあり、明るく、落ち着いた学校づくりにつながっている。ただ学力向上においては、県平均を下回る学年や教科があり、改善するための取り組みが課題である。学習面においては小中連携が不可欠でもある。次年度は、本年度の反省も踏まえ、キャリア教育の充実を図りたいと考える。また今後も地域・保護者との連携や協力体制を強化し、学校からの情報発信も密にし共有して、安全で安心してすごせる学校づくりに取り組んでいく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目